

012文
7887
7

報新濱横

り
ほ
ま

Seiji
Kobayashi

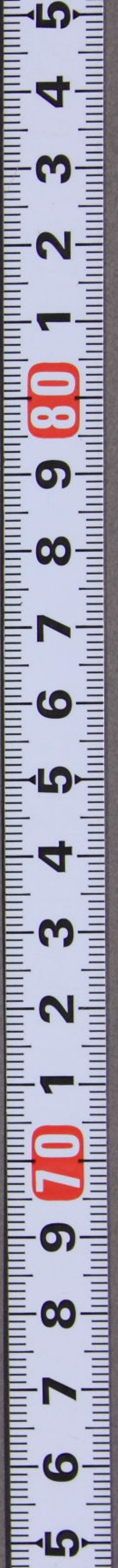
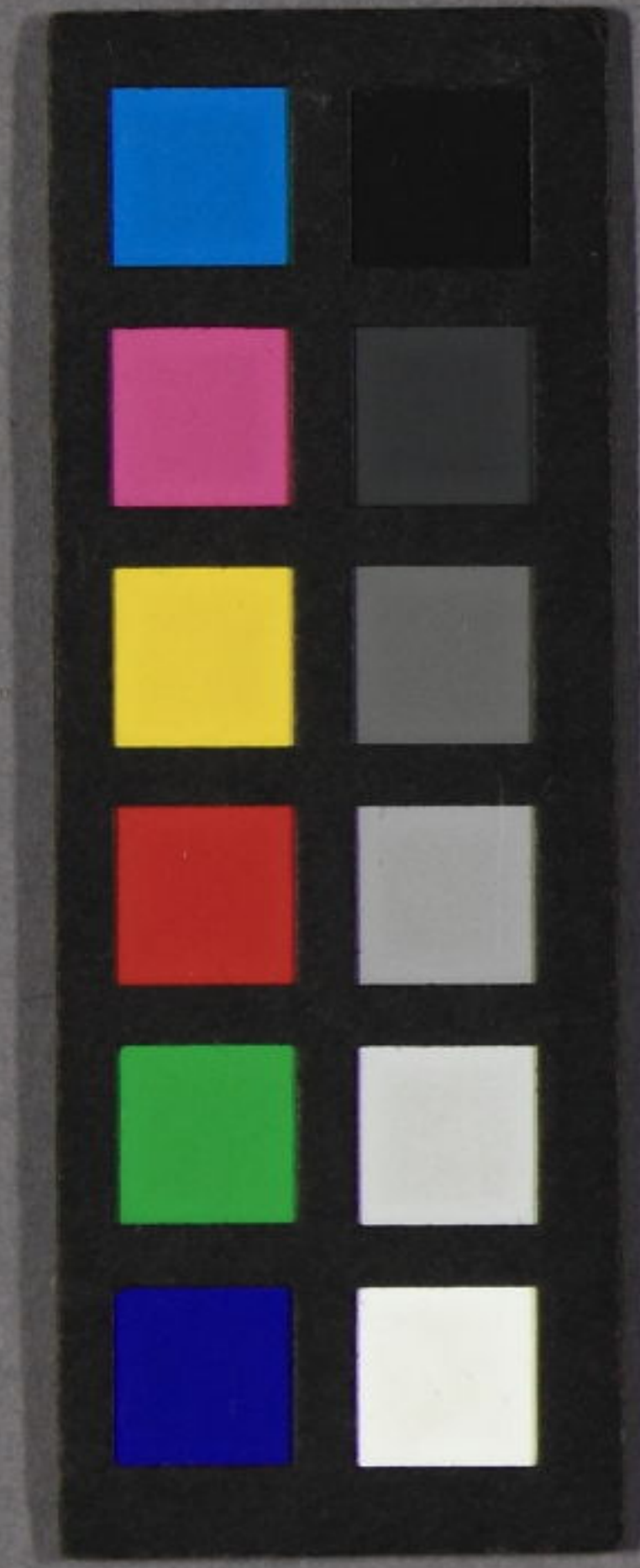
第七編

九十三番

ウエニリート

定價壹匁

K.S.ASOM



特 文庫10

7387

7

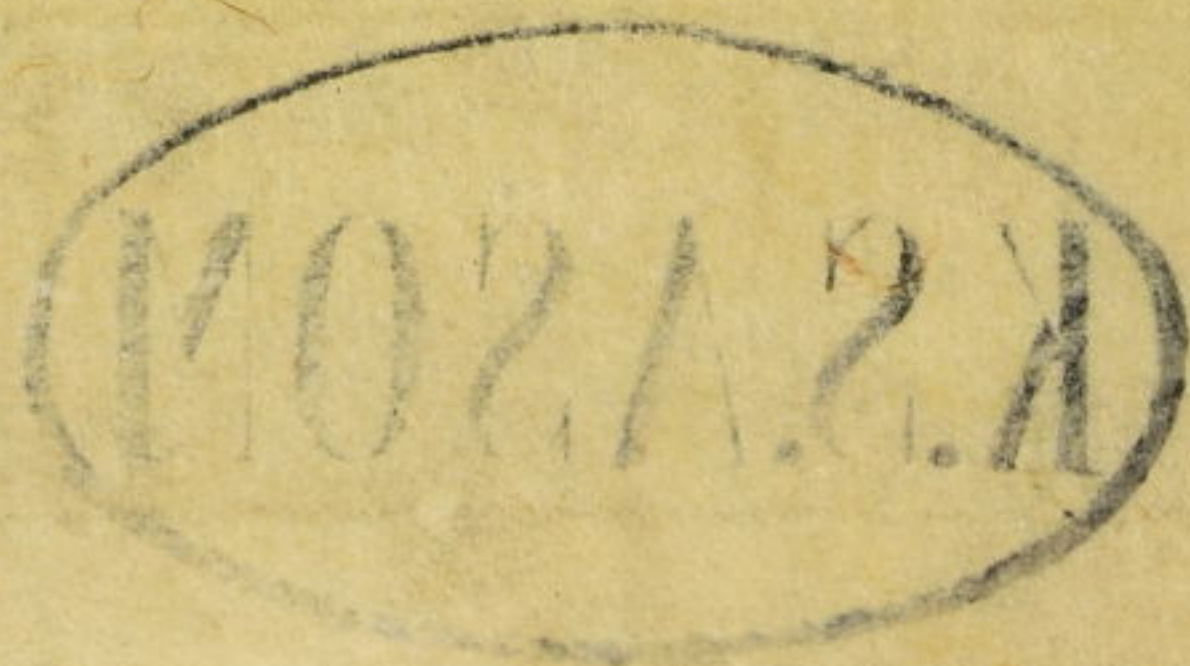
辨賞書

辨賞書

辨賞書

八十二番

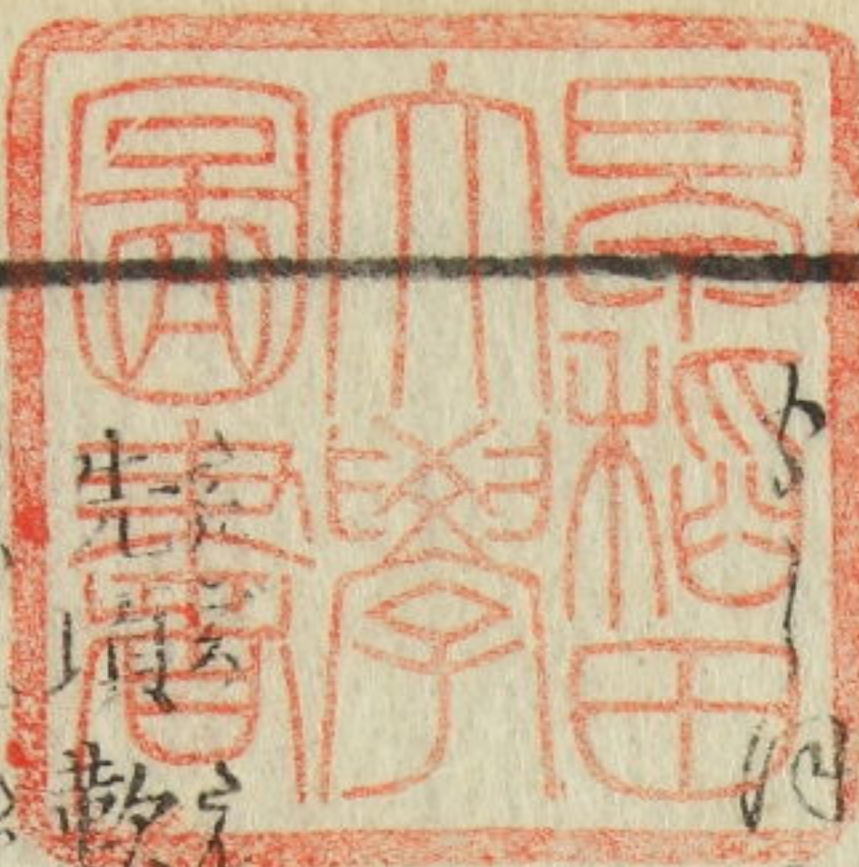
シテノニ一十



寶賢書

辨賞書

慶應四年閏四月廿八日



檄因循諸君

閏四月十六日淺草藏前小右貼帖

朝廷御評議可有之旨

參謀衆上京之由諸君其善左右

御待之様子相伺中い右ハ軍吏之いろはるハ旗下之人心を緩

むハの術可有之其證を御裁許之節来許ハ歎願等斷

然不聞召確乎不被仰渡其言未終ハ關八州駿遠

參之所望萬ハ被行中間敷ハ徳川氏有功無罪也

何ぞ歎訴及ハ哉諸君此差別御定論之上御奮發を祈

中は御同列に計策のいろはに陥被成ゆの残念
存に依之以檄文中進ゆ

○北國より出たる檄文

このたび關東へ軍勢發向しつゝゆるり是より天下の
みづれと相成佛法すつびつすぞ哉と悲歎おぼる
めく其譯ハ今度天子を掠め奸邪むほんを企
徳川家をほろがし天下をむむひとらけいもかく
はく實ふゆしん大事ふゆりたり彼等の佛法
小信仰ふれあこころさうさう浄土真宗をひほう

異國人よりきりあらん邪法をうけはぎゆ
佛敵ふまぎれと違ふくゆそれ一味つゝゆめいの
皆く佛敵こそたそ今生めく一旦栄ありと雖
阿鼻地獄の罪人の萬一奸邪のま藩勢國まはびとり
佛法破滅ふ及びきりあらん宗門世にむらり日本
國中魔道ふ落入ゆも其時に至り歎めたりむ共
其のひささうにあらざる昔開山親鸞聖人
をほめ奉り御代この善智識方佛法の為め
身命を惜たすらげ顯如聖人の御自身ふ忍辱乃
鎧をめぐせし道弥陀の利劔をりつゝ佛敵を降伏

何れもその例もこそ是あり今日佛恩報謝乃
たため身命をたもたうべき時來まり依て門徒中
心を何れも佛敵とえよけぬや二念多く打取り中
萬一佛敵のため命をたもたひぬとも浄土に
引接さるにたもたひあるべしとさるるあり

四月

門徒中

○ 茅三篇ふ十三日ふ真鶴一蒸氣船三艘着岸世
とつりこのむ後小田原よりきつる人のほき

まけバ三百石積ぐの船二艘はく房州の方
よりきたりし由との上陸せし脱走の兵小田原
より二羅山ありむたしつれより沼津へ又甲
府の方へきつり

○このころ浦賀も兵卒おほく滞留しとぬると
風聞にうづぐくのまの兵もや

○さうのふけふのうち小田原はく一合戦ありまはし
るはきする者あれども誠ふそのりけりしともまは
○横濱にりとこのころ下番といふその防門又ハ
はしむんの番としくわたりしつら二十日のいさ

あつのに百五十人をとりはぎらせしとぞつぐく
ゆきふのつらん給金のまゝをきとつたなりて
にけしなるべし

○二十一日小官軍の兵士五百人をり横濱へつりまゝ
まりこの港の警衛のためなりともひ又北國へ
進發はるべし

○このごろ房總の合戦小疵をうけし官兵を
横濱へ送りまゝなり英國の醫士ウイリスを招き
て修文館まゝ療治をせしむの臂をかきまはり
とりたるもあり脚をうしりしまりたるも

ありまゝ打こまはれたる砲丸をほりいづすもあり
る人そご後にまゝころくありしとたん

○二十二日金銀なまび銅錢の價直おほひに
つぎまゝなりまゝいあまはるく人の志りたる
るをのればるにいづまは

○英人重井鍊之助このごろ新聞紙をゆしつりと
まけりのまゝつるべといふもさゝめて奇談珍説はる
べし

○ペーリイの萬國新聞紙もこのごろ十一篇を出版
せり

○江戸と横濱のあつひ蒸氣船ひきつゝやすいぬ
たりしころの廿四日よりまゝ往來するところ横濱の
鹿島屋に船の切手をとり江戸の永代乃藤棚
にて賣るとぞ

○二十三日ふらふらの博覧會へゆき吉田氏あり
きつり清水卯三郎の十日もあられてあつるべし
といふ

譯録 香港新聞

四月廿七日廣東省城の揚某といふもの鹽商人あり

けるこの順德縣の龍潭渡といふ處を船までとほり
るふの忽然と一々大風あはれおろり大雨そそぐ
がぶつとくまのりられ船人どもおほひおほひとま
まひき船をとどめりしとんとすれども巨浪をのり
如るて力にあつたがさうりしゆやける外の船は打あつ
て二艘ともに覆没したり何れもむづろ搭客四十
餘人たいていとな溺斃せしにこの揚某なるもの
からうとく命をとりをたのめ得る省城にあつて
きつりてかくりのころしつりしころとさうく揚某の
水濱のころし人家樹木等ととぐく風雨は打碎

まうとぞ或人の説ゆらゝの時断尾龍が経過し故
みかゝる異常の風勢ありしなるべしと

支那人のさうく童たの鬼だのといふ怪談をそのむ
ちありこれいその國の學風より移ししゆぬゆき道
理にらうたうらめりやあるべし

○二十二日ちあふしまの兵をどぶさうらふの兵つづみ四百
五十人ががれつゝといふあめりこのの蒸氣商船へ
めりて北國征伐のため横濱より出帆せんとい
せゆめりこののさあすたるそのとせゆさばこまに
よりてめりこゝたるつはりのらもあつて上陸し

ちありとあんなれハ局外中立の掟ゆるふよりて
あるべし

日本の萬國と和親して世界上に日本あることを
いふをいふたういあめりこのの功あり志の強を
徳川家のいふらんすをまゝあはれものにあひ
とりてまゝいふまゝいふことはいざりすをこま
なくむらまゝいふいふあめりこのはそいさうに
うらまゝいふこといふこといふことあるべし

○同日あはれまゝといふいさうすの蒸氣商船官軍
の兵四百人けりりめせく浪華より着岸しししが

いざりすのともあすともそのりやまきりく二十三日早朝
その船を官へとりあがりたりとまんこれに局外中立
の掟にそむくゆゑなまきりきそよふどの法ぐのひ
きんやいざりすはらの船をバのりすまどなど風
聞はり

I

I

カ
ノ
ノ
ノ
ノ
ノ

西垣文庫 特
文庫 10
7387
7